

【宮ノ浦遺跡第8次発掘調査の見どころ】

1. あらたな土器製塩地点の発見（Ⅰ区 29・30 トレンチ）
青屋根建物の東側に設定した 15 トレンチでは製塩炉、灰白色物質および複数の製塩土器だまりを発見し、古墳時代前期（3 世紀後半～4 世紀）のクロスナ層にともなう活発な製塩活動を見いだすことができました（第4 次～6 次調査）。今回の調査では建物の西側にトレンチを設定して発掘し、古墳時代前期のクロスナ層とそれにもなう製塩土器を確認できました。製塩炉の残骸と思われる炉壁片や灰白色物質も検出でき、付近で海水を煮詰めた（煎熬した）可能性が高まりました（村上）。

2. 古墳時代後期の製塩活動を確認（Ⅰ区 29 トレンチ）
これまでの発掘調査で発見された製塩土器はすべて脚台式製塩土器で、古墳時代前期に属するものでした。今回の調査では脚台のない鉢形の製塩土器がはじめて発見されました。この製塩土器は古墳時代後期（6 世紀）の須恵器の近くから出土しています。既往の研究によって、この製塩土器は古墳時代後期（6 世紀）と考えられており、そのことを実証する例となりました。と同時に、宮ノ浦遺跡における製塩活動の時代を新たに一つ加えることができました（村上）。

3. 古墳時代前期の生活域を発見（Ⅰ区 N15 グリッド）
浜堤と後背湿地に広がる平坦地に設定した N15 グリッドでは古墳時代前期の土器が大量に出土しました。その種類は脚台式製塩土器だけでなく、壺、甕、高坏、鉢など日常的に使用された土器も数多く含まれています。製塩に従事した人々が過ごした場所、作業の合間に休憩し、食事をとった場所を絞り込むことができました（村上）。

4. 古代末期～中世の生産施設か？（Ⅱ区 10・14 トレンチ）
昨年度（第7 次調査）から調査を開始したⅡ区では厚い粘土の広がりが確認されました。この粘土は単なる塊ではなく、その表面は皿状にくぼめられた部分や床に塗りつけられたような平坦面を観察することができます。調査区外から運び込まれた粘土を用いた何らかの構造物があったのでしょうか。調査範囲が狭いため、その機能を十分には判断できませんが、単なる住居とは考えづらいことから、何らかの生産施設の一部ではないかという仮説を立てています。来年度、調査範囲を拡張して、その解明に取り組みたいと思います（村上）。



写真 12 29 トレンチ



写真 13 製塩土器出土状況



写真 14 古式土師器出土状況



写真 15 10 トレンチ



写真 16 調査風景

謝辞 第8 次宮ノ浦発掘調査に際し、多くのご支援、ご協力に賜りました。最後になりましたが、記名して感謝します。(50 音順、敬称略) 青柳泰介、岡崎壮一、角上寿行、國友美那、藏本諭、黒住耐二、白川泰嵩、鈴木康之、高宮広土、辻康夫、遠部慎、中野咲、中原計、濱田和保、丸山真史、村上知貴、村上友美、村上律子、持永壮志朗、八木宏明、NPO 法人弓削の荘
発掘参加：村上恭通、楨林啓介、笹田朋孝、柳本照男、北條芳隆（以上、調査員）有馬啓介、曾根大地（上島町教育委員会）、淡野寧彦、今井哲令、鄭宗鎬、品川愛、馬赤嬰、青木聡志、松尾麻未、鄧媛、郭俊輝、穴吹卓大、芝浩司、松田凌馬、石橋春奈、神野晃太、高田沙也加、今川聡太、大野美来、岡林千夏、松田萌、村上和香子、渡邊怜士（以上、愛媛大学）稲本悠一（京都府立大学）、金泰顕、韓俊元（以上、韓国東洋大学校）鳥居貴康、岩浪陸、高梨寛泰、大本凜、植竹竜也、小峰彩椰（以上、東海大学）、国安登（愛媛大学古代鉄文化研究センター友の会）

宮ノ浦(みやんな)遺跡第8次発掘調査 現地説明会資料 愛媛大学法文学部考古学研究室・上島町教育委員会 2018/8/18

調査の概要

宮ノ浦遺跡は愛媛県上島町佐島に所在し、東西から伸びる2つの砂堆の上に立地しています。過去7年の調査では、西側の砂堆とその周辺（Ⅰ区）を調査し、古墳時代前期の製塩炉や中世の塩田跡、縄文時代～現代の遺物などを検出しました。東側の砂堆（Ⅱ区）では昨年度から調査をはじめ、古代～中世の礫群を検出しました。

Ⅰ区では、昨年度古墳時代前期の土器を手掛かりに、今年度の調査では土器の集中域を確認しました。また、古代の生活面も確定できました。29、30 トレンチでは古墳時代の新たな製塩活動の跡を探索すべく調査しました。その結果、古墳時代前期のクロスナ層に伴う製塩関連遺物を確認しました。また、これまで確認できなかった古墳時代後期の製塩土器、須恵器を確認しました。

Ⅱ区では、本年度の調査において昨年度調査で検出された礫群の性格を確認すること、ならびに当時の地形環境と遺跡の堆積過程を明らかにするために新しいトレンチを設定し調査を行いました。調査の結果、礫群のさらなる広がりや複数回に渡るクロスナ層の形成過程を明らかにすることができました。また、粘土や焼土の広がりも確認され、これらがどのような活動を示す痕跡であるのかを今後の調査で明らかにしていきたいと考えています（青木、岩浪、郭、鄭、鳥居）。



写真 1 宮ノ浦遺跡遠景

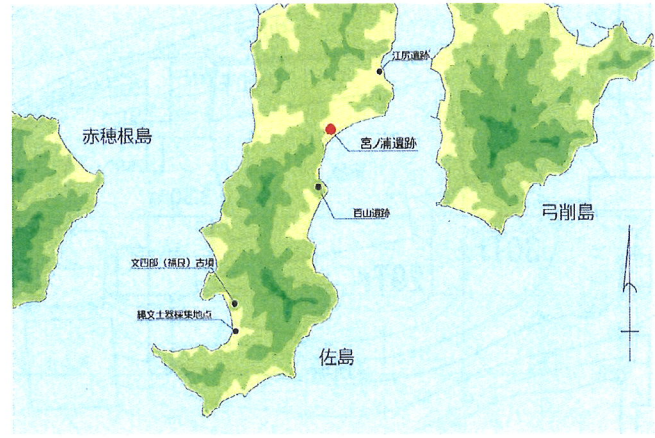


図 1 宮ノ浦遺跡位置図

第8次調査の目的と発掘調査区(トレンチ)

- ①古墳時代前期のクロスナ層の広がり新たな製塩活動地点の探索…29、30 トレンチ
- ②古代の生活域と古墳時代前期の生活域の確認……………N15 グリッド、31 トレンチ
- ③礫群の性格と範囲の確認……………5 トレンチ、9～14 トレンチ

- ①미안나유적에대한 고분시대 제염활동을 상세히 확인……………29、30트렌치
- ②고대생활영역과 고분시대 전기 토기 범위 확인……………N15、31트렌치
- ③조약돌군의 성격과 범위의 확인……………5 트렌치、9～14트렌치



写真 2 調査前風景

各調査区の成果

< I 区 >

N15 グリッド

数多くの古墳時代前期の日常土器と製塩土器が共伴することを確認しました。また、緑釉陶器や青磁を含む陶磁器、土器類や鍛冶滓と羽口も出土し、古代の生活域を復元できる手掛かりを得ることができました(青木)。

多수의 고분시대 전기의 생활토기와 제염토기가 공반하는 것이 확인되었다. 또, 녹유도기와 청자, 단야슬레그와 송풍관이 출토되어 고대생활영역을 복원할 수 있게 되었다(韓、金)。

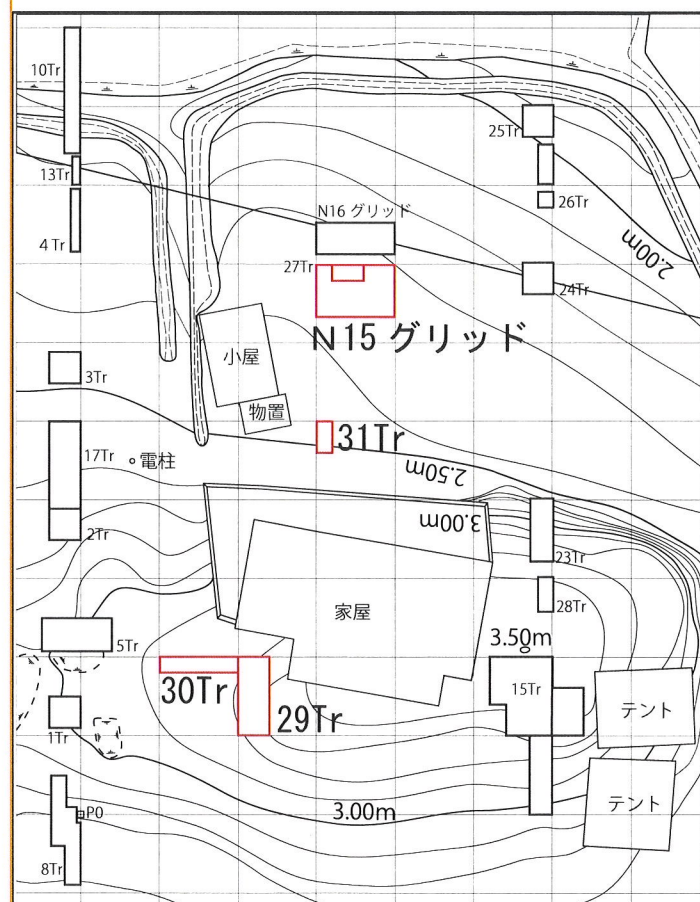


図2 I区トレンチ配置図

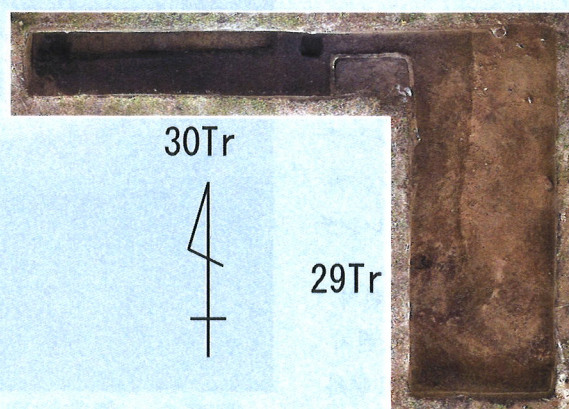


写真5 29、30 トレンチ

31 トレンチ

古墳時代の土層の連続性と古代の土層の不連続性が確認されました。(高梨、松田)

고분시대 토층의 연속성과 고대 토층의 불연속성이 확인되었다(韓、金)。



写真3 スラグ

写真4 古代の土器

29・30 トレンチ

29・30 トレンチは過去の調査で判明した製塩活動の範囲を確認するために設定しました。29 トレンチでは、古墳時代の地表面や柱穴などの遺構が検出され、古式土師器、製塩土器、須恵器、高杯、炉壁片などの遺物が出土しました。あわせて現代の建物の石列も検出されました。30 トレンチでは、古墳時代の遺構は確認できませんでしたが、現代の便槽が検出されました。遺物は29 トレンチと同様のものが出土しました(郭、鳥居)。

29, 30트렌치는 이전 조사에서 판명된 제염활동의 범위를 확인하기 위해 설정했다. 29트렌치에서는 고분시대 지표면과 주혈등의 유구가 검출되었고, 고식하지키, 제염토기, 스에키, 고배, 노벽편등의 유물이 출토되었다. 아울러 현대 건물의 석렬도 검출되었다. 30트렌치에서 고분시대 유구는 확인되지 않았지만, 현대의 변소가 검출되었다. 유물은 29트렌치와 같은양상의 유물이 출토되었다(韓、金)。



写真6 古式土師器

< II 区 >

砂堆の堆積状況について(5・9トレンチ)

5、9 トレンチでは黄褐色砂層の上に地表が腐食して黒色化した層であるクロスナ層が形成されていました。クロスナ層は古代末～中世の遺物や礫を含み、北に行くほど厚く堆積していました。クロスナ層は色調や含有物によって複数層に分層できるため、クロスナ層の形成過程をさらに細かく検討することができそうです(岩浪、鄭)。

5, 9 트렌치는 황혼색 모래층 위로 지표면이 부식되어 흑화한 쿠로스나층이 형성 되어 있습니다. 쿠로스나층은 고대 말~ 중세 유물이나 이력을 포함, 북쪽으로 갈수록 두껍게 퇴적되어 있습니다. 쿠로스나층은 색조나 품은 유물에 따라 복수층으로 분류 될 수 있기에 쿠로스나층의 형성과정을 보다 자세하게 이해 할 수 있게 되었습니다(韓、金)。



写真7 9 トレンチ断面図



写真8 5 トレンチ礫出土状況

礫群について(5、10～14 トレンチ)

昨年調査で現代の耕作土層(1層)下の2層(古代～中世)で面的に広がる礫群を確認しました。しかし、どういった性格のものか不明であったため、まず今年度は礫群の範囲を確認するために新しくトレンチを設定しました。調査の結果、南側と西側に広がる事が分かりました。

10 トレンチでは礫が密集し、その上層で粘土の広がりが見出されました。粘土塊の表面は皿状に窪んでいることから、単なる塊ではなく、構造物の一部である可能性が出てきました(岩浪、鄭)。

작년 조사에서 현대 경작층(1층) 아래 2층(고대~중세)에서 조약돌 군집을 확인하였습니다. 그러나 성격을 알 수 없어 이번 조사에서는 우선적으로 그 범위를 알기 위해 새로운 트랜치를 설정하였습니다. 조사 결과, 남쪽과 서쪽으로 분포하는 것을 확인하였습니다.

10 트랜치는 조약돌이 밀집, 그 윗층에서 점토의 얇은 분포를 확인하였습니다. 이를 통해 건물의 일부일 가능성이 대두되었습니다(韓、金)。



写真9 礫・土器出土状況



写真10 12 トレンチ礫出土状況



写真11 10 トレンチ粘土塊

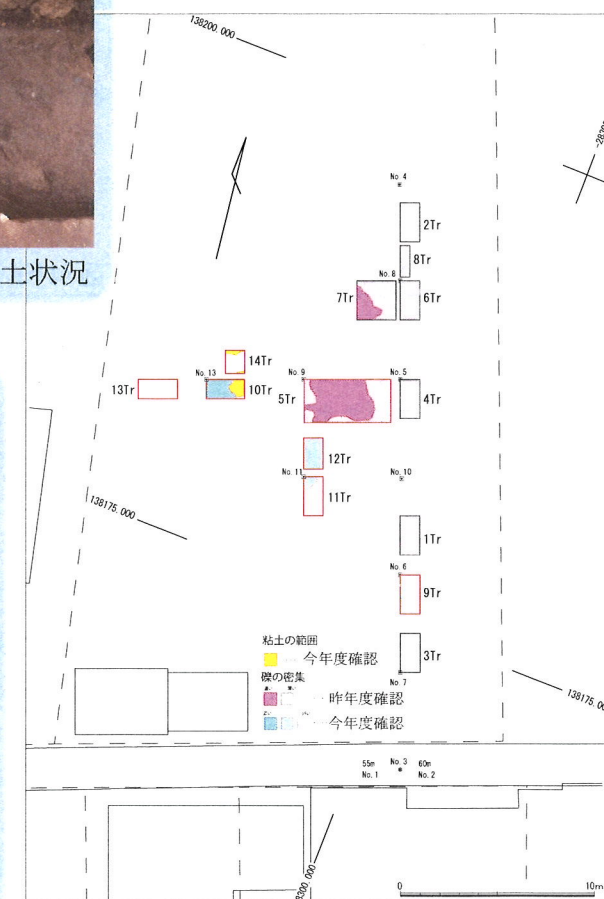


図3 II区トレンチ配置図